

「なぜ君は、科学的に考えられないんだ？」

松尾佑一（著）

単行本，272ページ，¥1,848-
(クロスメディア・パブリッシング，2023年3月2日)

良書は心と頭の栄養！今回も1冊紹介させていただきますので，お付き合いの程，何卒よろしくお願いいたします。

もし誰かから，「なぜ君は、科学的に考えられないんだ？」と言われたとしましょう。皆さんはどんな気持ちになるでしょうか？メディアの影響からか，ちょっと変わった学者先生が一般人に向けて言い放つ（似たような台詞を連発する某テレビドラマもありましたっけ…），ちょっと上から目線な言葉に聞こえてしまい，おそらく不快に感じる方が多いのではないのでしょうか。私自身も以前勤めていた職場で，上司と分析データの解釈について議論となった際，「科学的・統計学的根拠はあるのですか？」と主張したところ，上司が非常に不機嫌になり，怒られてしまったことがあります。結果的には私が正しかったのですが…（若手の皆さんはくれぐれもマネしないで下さいね…（汗））。

しかし，日常生活やビジネスにおいて，「科学的に考えること」は仕事や家事の効率を向上させたり，怪しいデータを提示してくる詐欺や悪徳商法から自身の身を守ることに繋がったりと，非常に重要です。逆に「なんとなく」で判断してしまった結果，損失を出してしまったり，好機を逃してしまい，「もう少しよく考えるべきだった」という経験は誰にでもあると思います。

本書は化粧品メーカーに勤めるヒロインの女性と，共同研究先の変人教授が，共同プロジェクトを進めるストーリーとなっています。純粋に物語としても面白いのですが，その中で「プレゼン」，「人間関係」，「デスクワーク」，「データ分析」，「シミュレーション」，「イノベーション」について，具体例を用いながら科学的に考えていく構図となっています。フィクションですので，「こんなに上手くはいかないだろう」という部分はありますが，日常生活や普段の仕事といった親しみやすい設定となっています。普段の生活環境，何気なく作っていた資料や原稿，日常に溢れているデータなどに「科学的思考」という要素を加えると，より効率が良くなり，説得力が向上し，客観性が増すといったヒントをくれる書籍です。

「科学的に考えるというのは，データでもって物事を理解，説明，予測して，相手を，世界を納得させることだ。老若男女，文系理系を問わずどのような人々にとっても共通で公平なものであるんだ。（本書の第7章より）」という本書の記述が示すように，理系だから科学的考えなくてはならない，文系だから科学的に考えなくてもよいというものではありません。今までの生活をほんの少しか「科学的に」考えてみませんか？

（フロンティアフーズ株式会社 技術部 村田 真一郎）